



テーマ2：家庭の防犯対策について考える

～ご家庭でできる性教育・自衛策・約束など、どのように対策をしていますか

各ご家庭での取り組みについて各校がアンケートで集めて発表しました。

性教育	<ul style="list-style-type: none"> ・子供と家庭で性の話ができるようにしている ・男女の体の違い、心と体の性について話をしている ・プライベートゾーンについて話をしている ・命の大切さについて話をしている ・本や講座を利用している
自衛策	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪に対するケーススタディ（警視庁アプリ防犯アプリ Digi Policeなどを利用） ・子ども110番のお店や家がどこにあるか子どもと一緒に確認しながら歩く ・キッズケータイ、GPS、防犯ブザーを持たせ、実際に使えるように練習する ・周囲の環境保全、危険個所の共有、地域でのあいさつを積極的に行う
約束	<ul style="list-style-type: none"> ・いかのおすし ・外出時、留守番時、出先で迷子になったときのルールを決めている ・帰宅時間を決めている ・SNSルールを守って利用している ・嘘はつかない、隠し事をしない、挨拶は大きい声ではっきりと。

性教育について取り組んでいる方々がいらっしゃる一方で、イメージを持つ持たせることが難しく、家庭で話題にしづらいという意見がありました。



千葉教育長

ご家庭でのお子さんとのやり取りがベースになって早期発見や予防につながることを改めて感じました。

子ども達が不審な人を見かけてもすぐに伝わらないことがあります。「その日に言ってくれば、もっとパトロールを強化できた・場合によっては犯人を検挙できたかもしれない」というようなケースがあります。ちょっと心配だというようなことがあれば、早め早めに学校へお伝えください。

自画撮り被害など、子どもによっては恥ずかしいとか言いにくいということがあるかもしれません。けれども、少なくともご家庭の中では共有をしていただいて、必要があれば学校の担任や養護教諭に伝えていただければ秘密を守りながら、予防や抑止に向けた動きができます。

性に関わる場所では、養護教諭が中心となり保健だよりを定期的に出しています。これを一つのきっかけにさせていただいて、家庭で話題にいただければと思います。発達段階に応じて学校で指導している内容について知っていただき、家庭ではこういうことができるのか、さらに学校ではこういうことをやってもらいたい。そういうキャッチボールができればありがたいと思います。

また、家庭教育学級という保護者の子どもの理解につながる学びの機会を用意しています。これは順番に各学校でご活用いただいています。学校と相談して計画的に進めていただければ、そこに外部の講師の方を呼んで、保護者の方の勉強会も可能ですので、ご利用ください。



阿部市長

子どもを育てるといことは、やはり愛情がなければ育たないし、実はその愛があるからこそ、相手への思いやりが生まれます。生き物について一緒に学んだり、飼ったりすることで命について子どもと語ることもある意味、性教育の一環だと思います。

家庭でできること、親子で話ができることが、実は将来大人になった時に性犯罪を起こすのか起こさないのかという時に、抑えになることがあるかもしれません。